

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800024		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホームみどり野の郷		
所在地	北海道 空知郡 南幌町栄町1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0195800024-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0195800024-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みどり野の郷の理念でもある「支え合い・豊・安らぎ」をテーマに高齢者の尊厳を支える個別ケアを追及援助し、終の住み家としての機能やあり方を優先させ地域社会の一員としての生活を再編し、コミュニケーションのなかでの自己実現の支援に努めています。

・近所には役場や馴染みの食品店、目の前が消防署、警察、郵便局があり、安心して暮らしができる立地条件です。また、母体である協力病院が隣接にて、24時間の支援体制を確保しています。入居者様、ご家族様、働いているスタッフの安心に繋がっています。同建物内に老健やデイサービス、訪問看護、ヘルパーステーション、居宅事業所、サービス付き高齢者向け住宅があり、多機能に対応しています。同建物内に他事業所があることで慰問や行事へ参加がしやすく、交流の場となっていたり、作業療法士や栄養士、言語聴覚療法士からのアドバイスや情報交換がスムーズに行える利点があります。

・法人の委員会の研修会で勉強をする機会が多くあります。また、法人内のグループホーム(3か所)の管理者や役職者で月に1回会議を開催し、困難事例の検討でアドバイスやお互いの意見を出し合い、広い視野を持つことができます。また、新人研修時は他部署への研修も行い、知識の習得や今後の関係性が円滑になるような体制づくりをしています。

・季節や個人の要望に合わせた外出支援を行うことで気分転換を心がけている。今年からは畑作業を取り入れ、外に出る機会を増やしました。野菜を入居者様と一緒に育てたり、収穫した野菜を調理して美味しく食することができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みどり野の郷」は1ユニットのホームで、南幌町の中心部に位置する法人施設「ライフケアセンターなんぼろ」の3階に併設している。建物1階は在宅サービス支援部と2階がサービス付高齢者向け住宅になっている。周囲には行政機関や商業施設等があり、バス停からも近く利便性が高い。同一建物内の法人老人保健施設の行事に参加したり、母体の提携医療機関に一時的な入院や長期間点滴に通う等、法人内の連携で利用者の安定した暮らしを支えている。運営推進会議と同日に避難訓練を行い、委員が誘導後の見守りで参加している。法人合同のお祭りには多数の参加を得て住民と交流し、今年度は子供と交流する機会を増やし、学童保育の子供たちが来訪して短冊作りや遊びを通して楽しい交流になっている。今後も子供との交流を継続したい意向で積極的に取り組んでいる。管理者と職員は、法人が設置している各委員会からの情報や内外の研修に参加して普段のケアを見直しながら良質のケアを提供している。介護計画の見直し時には各職員が評価を行い、介護計画の目標を意識して個別の意向に沿って対応している。今年度は同一法人グループホームの畑の一角で畑作業を楽しみ、収穫した野菜と一緒におやつを作る等、外出の機会や楽しみごとが増えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のケア理念に基づき、皆様が共有できるように提示している。また、職員が確認しやすいよう名札裏に記載。日々、個人の尊重を踏まえた支援の実行ができているか検討、実践している。また、事業計画にも盛り込んでいる。	地域密着型サービスの視点を盛り込んだ事業所ケア理念を、重要事項説明書に入れて家族に周知している。また地域との関わりを意識して事業計画を作成し実践につなげている。職員は名札裏に記入した理念を見て日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人合同のお祭りや催し物、町内ボランティアの来訪、学童との交流、小学校の運動会総練習の見学、南幌神社祭の参拝、子供神輿見学等を行い、地域の方との繋がりが継続できるように努めている。	子供神輿の事業所訪問時におやつを渡したり、小学校の運動会総練習を見学している。今年度は学童保育の子供たちが来訪し、短冊づくりや遊びを通して交流している。法人合同のお祭りには近隣住民と一緒に催しを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や地域行事など通じ理解して頂く場としている。同一敷地内に通所や居宅支援事業所等が併設しており、いつでも見学に応じられる環境になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、入居者様の状況、活動報告を行なっている。話し合いの内容は全ご家族様に送付し、サービス向上に活かしている。	避難訓練と同日の会議には構成委員の他に消防署員の参加を得ている。家族には契約時に運営推進会議の内容を書面で渡したり、会議への参加を働きかけているが参加が少ない。感染症、外部評価など事業所報告を中心に意見を交換している。	会議案内にメインとなるテーマを記載し、参加が難しい家族の意見も得て、意見・情報交換で家族に役立つような議事録の充実を期待したい。法人内の人材や行政の情報等を活かし、ミニ勉強会で家族の参加につながるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者、地域包括支援センターの職員と常に情報交換できる体制になっている。また、3か月に1回、町内グループホーム連絡会議に出席し、情報交換を行なえる場がある。	今年度は集団指導の中で、介護保険制度変更等の情報を得ている。事例で報告事項がある時は町役場に出かけて書類を提出している。建物内の老人保健施設では中学生の職場体験実習を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の11項目について常に意識できるようにスタッフルームに提示しています。法人の内部研修や外部研修に参加し、研修内容をホーム内会議等で他の職員へ周知している。玄関の施錠については安全のため施錠しているが、入居者様の行動を察知し、束縛しないように、随時対応できるように努めている。	身体拘束の外部研修会に参加した職員は報告書を基に会議で伝達し職員間で共有している。身体拘束禁止行為の11項目をスタッフルームに掲示し、事例で話し合うこともある。玄関ドアの左手に階段があるため安全面から鍵を掛けているが、意向に沿って1階や外に出て行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加している。さらにホーム内会議にて研修内容の伝達を行い、全員が周知できるようにしている。		

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者様はいませんが、必要とする方については、関係者に都度説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は契約書・重要事項説明書に沿って説明を行い、質問を伺い、確認しながら説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で苦情委員を設置し、意見や要望を汲み取るシステムを構築している。また、法人事務所前に苦情・意見箱を設置しています。面会時にご家族様とさり気ない会話から意見を察知できるように心がけている。	家族の来訪時に現状を説明し、意見等は支援経過に記載して共有している。今後は個別毎に記録して些細な想いの把握を考えている。法人で事業所家族アンケートを実施しているが、項目に現場の希望を伝えて率直な意見を得たい意向もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議や随時カンファレンスでの話し合いの他、朝の申し送りや日常業務の中でも話し合いしやすい環境を整えている。また、年に2回の個別面談(管理者と職員)を行なっている。	ホーム会議では業務の見直しや研修の伝達、困難事例の対応等で意見を交換している。介護計画の見直し時にはカンファレンスを開催している。行事計画や利用者担当を分担し、担当職員は毎月お便りで本人の様子を家族に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や業務達成に応じて年に2回評価を行なっている。面談では労働時間等の個人の要望に合わせて対応しています。年齢制限はありますが、適切な評価を行い、昇進の検討を法人へ働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修にできる限り参加できるようにシフトの調整を行なったり、ホーム内会議で研修内容を確認し参加できなかった職員へ周知を行なっている。新人職員は研修内容に他事業所での研修を取り入れ、幅広い視野と今後連携しやすい体制がとれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3が月に1回、定期的に町内のグループホーム管理者や職員が集まり、情報の交換や日々の悩みごとができる会議に参加している。また、法人内のグループホーム管理者や計画作成担当者が集まり、感染対策マニュアルの見直しや統一したり、その他情報交換の場があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様と面談を行い、健康状況やADLの確認、困りごとや要望の聞き取りを行なっている。また、今までの生活スタイルが維持できるように随時ご本人様の状況を観察、お声掛けにて確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、困りごとや不安なこと、要望について聞き取りを行なっている。また、プラン開示の際も、意見や要望を意識して行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で今まで使用していたサービス事業者からの情報提供により必要な支援の把握、検討に努めている。法人内にある老健や病院等の連携や情報交換している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お掃除や食器の後片づけ、趣味活動と一緒にすることで、役割や暮らしの充実感を感じて頂きながら過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお手紙(毎月)で最近のご様子をお伝えしている。その際に身体状況や精神状況の変化についても報告を行い、ご家族様と理解に差がないように努めている。新規入居者様の場合は生活歴や習慣等をお伺いし、ケアに繋がられるように努めている。誕生会、敬老会、忘年会に参加して頂き情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、親戚関係等へ電話やお手紙、面会、お寺へのお参りなどの外出を継続できるように支援している。	法人合同のお祭りに参加している同町の知人と一緒に催しを楽しんでいる。年に数回は近くにある檀家のお寺参りに職員が同行している。遠方の友人と手紙や年賀状のやり取りが継続できるように切手や葉書を準備して渡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出の支援、食事の席、活動の際は利用者様の関係性に配慮しています。また、リビングでは、くつろげるように家具の配置を工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方向性について情報提供や関係機関との連携をはかり、ご本人様やご家族様が不安にならないようにご相談させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や様子を生活記録に記入するよう努め、思いや意向を意識した個別のケアプランを実践している。意向の把握が困難な場合はご家族様と相談して検討している。	会話や普段の様子から意向を把握してケアにつなげている。センター方式のシートを基に課題分析のアセスメント表を6ヵ月毎に更新しているが、趣味や嗜好の情報は十分とは言えない。	入居時のセンター方式の情報シートを活用して趣味や嗜好などの変化を追記したり、1年毎の更新で今の想いを書面でも把握し、日々の会話に活かされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中でご本人様からお話をお伺いしたり、ご家族様や在宅時のサービス担当者からの情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりに合った1日の過ごし方を重視しつつ、病状に合わせバイタル測定、精神・身体状況の変化を申し送り等で経過把握に努めている。また、定期的に医師へ相談している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に全職員で評価を行い、意見を反映し、サービス担当者会議を開催している。ご家族様には面会時に経過や課題を相談している。ご本人様の意向は日常的な会話から引き出したり、様子を観察して、プランに反映させている。	各職員が計画表に沿って評価を行い、カンファレンスで確認している。それらを基に計画作成担当者はモニタリング表を作成し、6ヵ月毎に介護計画を作成している。サービス内容に沿って変化なども加えて日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って実践を行い、生活記録へ記入。変化や対応方法の変更時は特記事項へ記入したり、印でわかりやすいように工夫している。日々の申し送りで情報共有し、経過観察を行い、プラン更新時や変更時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師、看護師、リハビリ課、栄養課、相談課へニーズに合わせて相談やアドバイスを頂き、連携に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防など地域の方々の協力をいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望は入居前にお伺いしている。提携医療機関に月1回の受診を職員が付き添いしている。提携医療機関以外の受診はご家族様の対応をお願いしている。精神科受診は職員が同行し、変化の内容を正確に報告しながら、薬の調整を行っています。	隣接している母体の医療機関に、ほぼ全員が通院している。暖かい時期には外気に触れながら受診しているが、冬季は建物内の渡り廊下から通っている。専門的な他科受診で安定している時は家族が対応し、必要に応じて職員も同行している。	

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、訪問看護ステーション、協力医院へ状態報を行なっている。夜間や休日、体調不良時は電話にて相談や指示を受けることができる。協力医院の看護師に診てもらえることができる。必要に応じ医師の指示のもと訪問看護の利用を行なっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院側との情報交換を随時行い、早期退院ができるように努めている。また、入院前や退院後に訪問看護を活用することで、入居者様が環境の変化を軽減しながら治療をすることができるよう病院関係者の関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様へ説明、意向を伺っている。重度化した場合はご本人様やご家族様や医師と相談できる体制を作っている。	重度化に関する対応指針に看取介護の視点を記載し、長期的な医療行為になると対応が難しいことを利用開始時に説明している。母体医療機関への一時的な入院や点滴に通い、個別の状態に沿って可能な限りホームで対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初期対応マニュアルや管理者や医療機関への連絡手段について周知している。また、実践を身につけられるよう法人の研修や外部研修に参加できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員や地域の方に参加して頂き、グループホーム単体と法人全体での避難訓練を実施している。また、部分訓練を実施し、日々意識できるようにしています。法人の研修会に参加し、水害や地震の際の連絡体制等について確認しました。	年に3回、消防署立会いの下で昼夜を想定した避難訓練を実施している。7月に法人全体で行い、2回は事業所独自で運営推進会議と同日に行い、委員が誘導後の見守りで参加している。法人では地震マニュアルの作成を検討している。	地震マニュアルに沿って、事業所内での危険個所の確認や各ケア場面での対応を職員間で話し合うことを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー配慮した言葉かけや対応に努めている。	新年度に接遇マナーの内部研修を実施している。個人的なことは居室やスタッフルームで話をしたり、書類も見えないように配慮して記録している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの際に思いを察したり、引き出せるような関わり方を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿えるよう日課や予定を変更して柔軟な対応に努めている。調整が難しい際はご本人様に説明を行い時間や曜日を改めることがある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望を伺い、訪問理容を利用してカットやパーマ、カラーや顔そりを行なっている。外出や行事には化粧やおしゃれをして出かけられるよう支援している。			

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい形態やにがてな食材は代替えで対応。誕生日会ではご本人様のお好きなメニューを用意したり、外食したり、食事の楽しみになっている。食後の後片づけを一緒に行う事で役割をもっていただいている。	主食は事業所で作り、おかず類は法人施設で調理している。誕生日会に本人の好きな献立にしたり、畑で収穫した野菜でも餅や南瓜団子などを利用者と一緒に作りおやつを楽しんでいる。個別にお寿司やデザートなどを食べに出かけることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂取できるように支援している。栄養摂取不足な入居者様には、栄養補助食品で補うこともある。また、栄養士やSTに相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行なっている。個々に応じ声掛けや見守り、介助を行なっている。また、必要時は歯科受診を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を生活記録に記入。個々の排泄パターンを把握し、排泄誘導している。トイレの場所が解りやすいように表記。必要に応じ2名介助を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。また、パットやおむつの使用は最小限にしている。	全員の排泄を記録して、個別にトイレ誘導や声かけを行っている。座位が可能であれば、二人介助でトイレでの排泄を支援している。職員は、適切な支援を行いながら、自分でできる行為を行ってもらうなど自立に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然な排便があるよう、毎朝ヨーグルトを提供。細目な水分補給と毎日の体操、オリゴ糖も効果がみられている。必要に応じて医師と相談を行い下剤や坐薬でコントロールすることもある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて、曜日の変更やゆっくり入浴できるよう時間の調整を行なっている。	入浴時間や順番、湯温など、本人の希望に沿って午前から午後の時間帯で週2回の入浴を支援している。職員とゆっくり会話をしながら入浴を楽しんでいる。体調や身体状況に応じて清拭や足浴、シャワー浴などを行いながら清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や疲労度に合わせ休息している。また、就寝や起床時間は生活習慣やその時の状況に合わせて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて確認。内服変更時は生活記録の特記や送りノートに記入。副作用や症状の変化を医師に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や得意なことを日々の生活で行えるようにしている。家事や運動、活動(貼り絵や裁縫、塗り絵など)、畑作業、外出等、生活に意欲が持てるよう支援している。			

グループホーム みどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出行事や天候や個々の希望に応じた外出の支援を行なっている。他事業所にある畑を活用し、畑作業を今年から開始しました。また、ご家族様に外出の協力をお願いしている。	今年度から畑作りを始め、春から秋にかけて週1～2回畑作業に出かけている。また、車椅子利用者も一緒に近隣を散歩したり、お寺やコンビニなどに個別に出かける機会も増えている。季節に応じて、栗山公園や岩見沢バラ園、ファームレストランなどに外出行事で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していることで安心される方はご家族様と本人様へ説明のもと所持金3000円までとして自己管理して頂いている。ご自分で支払いが難しい方は職員が買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のとりつなぎを行う等、利用したい時に電話ができるようになっている。ご家族様やご親戚にお手紙や年賀状のやり取りができる様、ご家族様に御協力を頂きながら個別に対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、換気や温度調整を行い、快適に過ごせるよう配慮している。また、季節の花や飾り付けを行い、四季を感じられる空間作りに努めている。	トイレや浴室を中心にした回廊型の造りで、食堂や談話室の照明も落ち着いた明かりになっている。壁には、利用者と一緒に作成したカレンダーや大きな日めくり、季節を感じる紅葉の折り紙作品などが飾られている。清潔感のある共用空間で、居心地よく過ごせる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士で過ごせるように、ソファの配置や食事の席を配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具を持参して頂き、ご家族様の写真や活動で作成した作品等思い思いの物を置いて頂き、ご本人様にとって落ち着ける空間となるようにしている。	落ち着いた配色の室内で、使い慣れた寝具類やタンス、衣装ケースなどを持ち込んで使いやすいように配置している。好みの縫いぐるみや写真などを傍に置いたり、自分の作品を飾り本人が落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札をつけ、わかりやすいようにしている。浴室は複数手すりが設置させ、個々に対応できるようにしている。トイレや廊下も手すりが設置されている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム みどり野の郷

作成日：平成 28年 12月 21日

市町村受理日：平成 29年 1月 6日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	ご家族様の参加が少ない状況で意見・情報交換が不足しています。会議の内容が活動報告中心です。	ご家族様の参加や意見を得て、運営推進会議を充実させていく。	・ミニ勉強会の開催(行政や法人内の部署へ講義依頼) ・会議案内の工夫(メインテーマを大きく記載) ・事前に参加できないご家族様に意見を伺う(書面や面会時)	平成29年 1月～ 平成30年 1月
2	23	一人ひとりの思いや意向について、普段の会話や様子から把握しているが、趣味や嗜好の変化等十分な情報把握には至っていない。	趣味や嗜好の変化等もプランに反映できるように書面でアセスメントを行う。	・嗜好の変化については、課題分析の食事の部分で見直を行う。 ・趣味や暮らし方の意向については、更新プラン作成の際にセンター方式(B3, B4)を追記し、現在のその方の思いを把握、活用していく。	平成29年 1月～ 平成30年 1月
3	35	火災についての避難訓練は実施しているが、その他の災害については、地震マニュアルの整備不足や場面想定訓練は実施していない。	火災以外にも予測される災害について、マニュアルの整備と場面想定訓練の実施を行います。	・防火委員主催の研修会への参加 ・地震マニュアルの作成 ・ホーム内での危険個所の確認、ケア別対応方法の周知	平成29年 1月～ 平成30年 1月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。